

2022年10月11日

報道機関 各位

東北大学大学院生命科学研究科

**「生物多様性観測と自然の情報開示」に関する
シンポジウム開催のお知らせ**
企業の生物多様性利用の影響評価について

2022年10月31日(月)に東北大学大学院生命科学研究科主催のシンポジウム「生物多様性観測と自然の情報開示」を開催いたします。

【概要】

民間企業や金融機関が、自然資本および生物多様性に関するリスクや機会を適切に評価し、開示するための枠組みをつくる TNFD (自然関連財務情報開示タスクフォース) が発足しました。今後、民間企業や金融機関が、生物多様性に関する利用や保全を適切に開示する必要が生じてきます。適切な生物多様性の利用や影響評価をどのような手法で実施するかについては、生物多様性を扱う研究者と、企業・政府などが連携してその枠組みを提案していく必要があります。

そこで、本シンポジウムでは、TNFD の現状についての報告を踏まえて、生物多様性を評価するツールの紹介とその実践例などについて報告します。さらに、研究者、企業、政府の関係者を交えて、生物多様性観測やその情報蓄積を企業活動の影響評価にどう活かすかを議論します。

本学は「自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)フォーラム」に2022年5月から参画しました。TNFD フォーラムは、自然関連リスクに関する情報開示フレームワークの構築の議論をサポートすることを目的として設置されています。TNFD フォーラムには日本からは金融庁や環境省、民間企業などが参画しておりますが、日本の大学からは本学が初めての参加となります。

自然研究の豊富な知見と研究力を活用して貢献し、ネイチャーポジティブな社会変革の実現に向けた役割を果たしていきます。

【開催概要】

2022年10月31日 13:00～16:00

場所:東北大学片平キャンパス生命科学研究科プロジェクト棟 大講義室(参加人数制限有)+Zoomによるハイブリッド開催(オンライン最大参加数 1000名)

プログラム

- 13:00 挨拶 東北大学総長 大野英男
はじめに 河田雅圭(東北大学大学院生命科学研究科教授)
- 13:10 TNFDが示唆する自然関連情報の進化の重要性
原口真(MS&ADインシュアランスグループホールディングス
サステナビリティ推進室 TNFD専任SVP)
- 13:30 生物多様性を巡る世界の動きとTNFDがもたらす企業への影響
藤田香(東北大学大学院生命科学研究科教授/日経BP 日経ESG
シニアエディター)
- 13:50 環境DNA観測網ANEMONEの可能性:自然資本を予測可能に変える
近藤倫生(東北大学大学院生命科学研究科教授)
- 14:10 ネイチャーポジティブのテクノロジープラットフォーム:企業活動を
生物多様性ビッグデータ分析で支援する
久保田康裕(株式会社シンクネイチャー代表取締役/琉球大学理学部教授)
- 政府や企業の取り組み
- 14:30 都市の生物多様性と定量評価～積水ハウス「5本の樹」計画を事例として
八木隆史(積水ハウス株式会社 ESG経営推進本部 環境推進部課長)
- 14:40 LEAPによる試行的開示とキリングループの統合的アプローチ
藤原啓一郎(キリンホールディングス株式会社 CSV戦略部
シニアアドバイザー)
- 14:50 環境省の取組
浜島直子(環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性主流化室長)
- 15:00 休憩
- 15:10 パネルディスカッション

主催:東北大学大学院生命科学研究科

後援:東北大学グリーン未来創造機構、東北大学ナレッジキャスト株式会社、東北大学社会にインパクトある研究 自然共生

【参加申込】

会場で対面参加を希望の方は人数制限があります(オンライン参加(zoom)は最大1000名までです)。

参加希望者は10月26日(水)(会場参加は10月20日(木))までに以下のページから申し込んでください。



<https://e-ve.event-form.jp/event/38216/tnfd1031>

【問い合わせ先】

東北大学大学院生命科学研究科
広報室 高橋さやか

TEL 022-217-6193

E-mail lifsci-pr@grp.tohoku.ac.jp

生物多様性観測と自然の情報開示

2022年10月31日（月）13:00～16:00

現地参加（最大数44名） 東北大学片平キャンパス
生命科学研究科プロジェクト棟 大講義室



オンライン参加（ZOOM配信）

現地参加・オンライン参加の申し込みは、右のアドレスからお願いします
2022年10月26日まで

<https://e-ve.event-form.jp/event/38216/tnfd1031>

民間企業や金融機関が、自然資本および生物多様性に関するリスクや機会を適切に評価し、開示するための枠組みをつくるTNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）が発足した。今後、民間企業や金融機関が、生物多様性に関する利用や保全を適切に開示する必要が生じてくる。適切な生物多様性の利用や影響評価をどのような手法で実施するのか、については、生物多様性を扱う研究者と、企業・政府などが連携してその枠組みを提案していく必要がある。そこで、本シンポジウムでは、TNFDの現状についての報告を踏まえて、生物多様性を評価するツールの紹介とその実践例などについて報告する。さらに、研究者、企業、政府の関係者を交えて、生物多様性観測やその情報蓄積を企業活動の影響評価にどう活かすかを議論する。

プログラム

挨拶 東北大学総長 大野 英男

はじめに 河田 雅圭（東北大学・生命科学）

TNFDが示唆する自然関連情報の進化の重要性

原口 真（MS&ADインシュアランスグループホールディングスサステナビリティ推進室TNFD専任SVP）

生物多様性を巡る世界の動きとTNFDがもたらす企業への影響

藤田 香（東北大学・生命科学/日経BP社）

環境DNA観測網ANEMONEの可能性:自然資本を予測可能に変える

近藤倫生（東北大学・生命科学）

**ネイチャーポジティブのテクノロジープラットフォーム：
企業活動を生物多様性ビッグデータ分析で支援する**

久保田康裕（株式会社シンクネイチャー・琉球大学理学部）

政府や企業の取り組み

都市の生物多様性と定量評価～積水ハウス「5本の樹」計画を事例として

八木隆史（積水ハウス）

LEAPによる試行的開示とキリングroupの統合的アプローチ

藤原啓一郎（キリンホールディングス）

環境省の取組

浜島直子（環境省）

パネルディスカッション

主催：東北大学大学院生命科学研究科

後援：東北大学グリーン未来創造機構

後援：東北大学ナレッジキャスト株式会社

後援：東北大学社会にインパクトある研究:自然共生

問い合わせ先

東北大学大学院生命科学研究科 広報室

TEL 022-217-6193: lifsci-pr@grp.tohoku.ac.jp

生物多様性観測と 自然の情報開示



東北大学と考える
企業の
生物多様性への対応

2022年

参加無料

10月31日〔月〕

13:00～16:00

会場参加〔先着順〕

東北大学片平キャンパス
生命科学研究科プロジェクト棟大講義室

オンライン配信 (Zoomウェビナー)

お申し込み締切 | 2022年10月26日〔水〕

<https://e-ve.event-form.jp/event/38216/tnfd1031>



主催 | 東北大学大学院生命科学研究科

後援 | 東北大学グリーン未来創造機構・東北大学ナレッジキャスト株式会社
東北大学社会にインパクトある研究 自然共生

東北大学と考える！企業の《生物多様性》への対応

民間企業や金融機関が、自然資本および生物多様性に関するリスクや機会を適切に評価・開示するための枠組みをつくる“自然関連財務情報開示タスクフォース<TNFD>”が発足し、今後、民間企業は生物多様性に関する利用や保全を適切に開示する必要が生じてきました。このシンポジウムでは、研究者・企業・政府それぞれの立場から、生物多様性の利用や影響評価について事例と議論を交えてご紹介します。TNFDの発足で、これから自然資本や生物多様性の影響評価と向き合う企業のみなさんをお待ちしています。



TNFDとは？

2021年に発足された自然資本等に関する企業のリスク管理と開示の枠組みを構築するために設立された国際的組織のことで、資金の流れを《自然を保全・回復するための活動》に回し、世界経済に回復力をもたらすことを目標としています。今後は企業が取り組むべき5つのステップ、①評価、②解釈・優先順位付け、③測定、設定、開示、④行動、⑤追跡などの詳細が決まっています、企業は対応を求められます。

PROGRAM

- 13:00 挨拶 大野 英男 (東北大学総長)
はじめに 河田 雅圭 (東北大学大学院生命科学研究科教授)
- 13:10 TNFDが示唆する自然関連情報の進化の重要性
原口 真 (MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社)
- 13:30 生物多様性を巡る世界の動きとTNFDがもたらす企業への影響
藤田 香 (東北大学大学院生命科学研究科教授/日経BP 日経ESGシニアエディター)
- 13:50 環境DNA観測網ANEMONEの可能性：
自然資本を予測可能に変える
近藤 倫生 (東北大学大学院生命科学研究科教授)
- 14:10 ネイチャーポジティブのテクノロジープラットフォーム：
企業活動を生物多様性ビッグデータ分析で支援する
久保田 康裕 (株式会社シンクネイチャー代表取締役/琉球大学理学部教授)
- 政府や企業の取り組み —
- 14:30 都市の生物多様性と定量評価～積水ハウス「5本の樹」計画を事例として
八木 隆史 (積水ハウス株式会社 ESG経営推進本部 環境推進部課長)
- 14:40 LEAPによる試行的開示とキリングループの統合的アプローチ
藤原 啓一郎 (キリンホールディングス株式会社CSV戦略部シニアアドバイザー)
- 14:50 環境省の取組
浜島 直子 (環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性主流化室長)
- 15:00 休憩
- 15:10 パネルディスカッション

SPEAKERS



大野 英男
東北大学総長



河田 雅圭
東北大学大学院生命科学研究科教授



原口 真 MS&ADインシュアランスグループホールディングス
サステナビリティ推進室 TNFD専任SVP

プラント・エンジニアリング企業での勤務を経て、1996年にMS & ADグループへ参画。以降、環境・社会・経済の持続可能性への配慮により、事業のサステナビリティ（持続可能性）向上を図る経営を支援する調査や分析、コンサルティングを展開。自然資本を活用した地域のレジリエンス強化と地方創生、SDGs推進の領域にて、数多くのオープン・イノベーション・プロジェクトに携わっている。また、次期生物多様性国家戦略研究会委員、ネイチャーポジティブ経済研究会（環境省）、生物多様性地域戦略改定検討会委員（東京都）など外部委員を多数歴任。



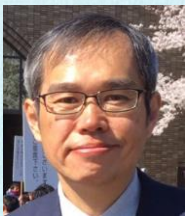
藤田 香 東北大学 大学院生命科学研究科教授／日経BP 日経ESGシニアエディター

富山県出身。東京大学理学部物理学科卒。日経BPに入社し、日経エレクトロニクス記者、ナショナルジオグラフィック日本版副編集長、日経エコロジー編集委員、日経ESG経営フォーラムプロデューサーなどを経て、日経ESGシニアエディターを務める。2021年度から東北大学教授を兼任。生物多様性や自然資本、持続可能な調達、地方創生、ビジネスと人権、SDGsなどの分野を専門とする。海の持続可能性をテーマにしたアジア最大級のサステナブル・シーフードの国際シンポジウム「東京サステナブル・シーフード・サミット（TSSS）」の共同プロデューサーを2015年から務める。環境省の中央環境審議会委員、ネイチャーポジティブ経済研究会委員。



近藤 倫生 東北大学大学院生命科学研究科教授

京都大学大学院理学研究科卒。日本学術振興会PD、龍谷大学理工学部准教授・教授を経て、2018年より現職。同年、環境DNA学会初代会長に就任。数理・統計モデルなどを利用した解析手法や、海での潜水目視・環境DNA・音響観測などから得られる生態モニタリングデータ、さらにはバクテリアや昆虫を用いた人工生態系実験など多様な道具を武器に、生態学的現象の本質を捉え、その背後に隠された共通原理の理論的解明を目指す。2011年Akira Okubo Prizeを、2013年には文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞。本シンポジウムでは、誰もが貢献・利活用できるオープンな生物多様性観測網「ANEMONE」がもたらす高度生態情報社会の姿を議論する。



久保田 康裕 株式会社シンクネイチャー代表取締役／琉球大学理学部教授

北海道大学卒。世界中の森林生態系を巡る長期フィールドワークと、ビッグデータやAIを活用したデータサイエンスを統合し、生物多様性の保全科学を推進するかたわら、研究者チームで株式会社シンクネイチャーを起業。日本の生物多様性地図化プロジェクト「J-BMP」や「ネイチャーリスク・アラート」をリリース。さらに、未来社会のネイチャートランスフォーメーションをゴールにしたNaFureX構想を打ち立てている。本シンポジウムでは、2030年までにネイチャーポジティブを実現するために企業に求められる事業戦略と、今後不可欠となる生物多様性ビッグデータ&テクノロジープラットフォームを紹介する。



八木 隆史 積水ハウス株式会社 ESG経営推進本部 環境推進部課長

1996年積水ハウス株式会社入社。事業所にて建物設計、エクステリア設計を担当し、2016年に環境推進部へ異動。同社が2001年から取り組む、生態系を配慮した造園緑化プロジェクトである「5本の樹」計画を推進。日本の豊かな自然を育ててきた「里山」を手本とし、「3本は鳥のために、2本は蝶のために。地域に合わせた日本の在来樹種を」をスローガンとするこの取り組みは、持続可能な社会の実現に向けた貢献が評価され、グッドデザイン賞、地球環境大賞を受賞。そのほか、持続可能な木材調達「フェアウッド調達」など環境関連事業に携わる。一級造園施工管理技士、樹木医。

SPEAKERS



藤原 啓一郎 キリンホールディングス株式会社 CSV戦略部 シニアアドバイザー

大阪府生まれ。電気工学部卒。1990年キリンビール株式会社入社。生産システム・企画担当として主に物流設備・システム関連業務に長く携わる。2006年より社会環境室に配属。一貫しグループの環境企画としてESG対応、環境対応を担当。KGO品質・環境推進部、CSR推進部などを経て現職。TCFD・TNFD、環境報告書に携わるほか、若年層向けワークショップや環境コミュニケーションといった企画を推進する。

TCFD業種別ガイダンス検討委員（TCFDコンソーシアム）、食品産業とESG投資に関する検討会委員（農林水産省）、地球温暖化防止活動推進委員会委員（全国ネット）、ネイチャーポジティブ経済検討会委員（環境省）など、外部委員も多数歴任。



浜島 直子 環境省自然環境局自然環境計画課 生物多様性主流化室長

2003年環境省入省。炭素税の制度設計や自治体への温暖化対策支援、公害による健康被害者への補償を担当。以降、2011年に発生した東日本大震災による、東京電力福島第一・第二原子力発電所事故をうけての除染作業等業務に携わる。2022年より現職。

本シンポジウムでは、生物多様性の経済社会における主流化に関する政府の認識や生物多様性観測および自然の情報開示に関する環境省の取り組み、OCER、保全活動効果の見える化事業について紹介する。



藤村 由紀子 司会

東京都出身。宮城テレビアナウンサーを経てバイリンガルアナウンサー・ナレーターとして活躍。司会・進行を務めます。

申し込み

＼ お申し込みはWEBサイトから ／



<https://e-ve.event-form.jp/event/38216/tnfd1031>

2022年10月26日〔水〕まで | 会場参加は先着順

《会場参加をご希望の方へ》

- お席には限りがあるため、先着順とさせていただきます。10/20（木）までにお申し込みください。結果を10/21（金）までにご連絡させていただきます。残念ながらお席のご用意ができなかった方は、オンライン参加にてご案内させていただきます。あらかじめご了承ください。
- 会場の詳細なご案内は、会場参加者が確定しましたら、追ってご連絡させていただきます。
- 来場の際は、感染症対策のためマスクの着用をお願いいたします。（会場にマスクのご用意はありません。必ずご持参ください。）
- 当日、体調がすぐれない方、または、周囲で感染者が確認された方は、念のためご参加をお控えくださいますようお願いいたします。
- 会場は常時換気を行います。ご自身での防寒対策をお願いいたします。

問い合わせ先

東北大学大学院生命科学研究科

担当：広報室 ☒ lifsci-pr@grp.tohoku.ac.jp ☎ 022-217-6193